

# 理解と信頼を得て事態悪化を防ぐ 組織強化に繋がる危機管理の要諦

社員が番組の女性スタッフを接待要員の様に扱い、男性タレントに引き合わせていたのではないかとの疑惑でフジテレビがメディアの追及を受けている。誠意の無い記者会見で猛批判を浴びた上、企業も次々とCMを引き上げる等、企業存続の危機とも言える状況だ。改めて企業の危機管理の在り方が問われる事態となったが、フジテレビと同じ轍を踏まない為には、どの様に危機に対応すれば良いのだろうか。1月22日の第84回「日本の医療の未来を考える会」では、広報コンサルタントで社会構想大学院大学教授の石川慶子氏に、危機管理の在り方や記者会見への臨み方について講演して頂いた。



石川 慶子氏  
広報コンサルタント、社会構想大学院大学 教授



## 挨拶



**原田 義昭氏** 「日本の医療の未来を考える会」最高顧問(元環境大臣、弁護士)

米国でトランプ大統領が就任しましたが、強気な発言や振る舞いに反発も多い様です。就任式で私の印象に残ったのは、彼が「これから黄金の時代が始まる」と言った事で、未だ始まったばかりの初日に、日本人なら「黄金の時代」とは中々言えません。しかし、日本の政治家もそれ位の気概と責任を持って行動する事も必要ではないかと感じました。



**三ッ林 裕巳氏** 「日本の医療の未来を考える会」最高顧問(前衆議院議員、元内閣府副大臣)

私も医療現場で危機管理が必要な場面に度々遭遇しましたが、患者の目線に立つ事が必要だと身を以て感じ、**続きを読むには購読が必要です**。メディアを信用する事が医療機関を守る事に繋がるのだと思います。又、薬が医療現場に届いていないとの話を聞きます。日本の社会保障の基盤を安定させる為にも対策が必要です。

続きを読むには購読が必要です

詳しくはホームページをご覧ください

